

看護学科

辻本 健

准教授

【研究分野】

小児がん、ケアモデルの開発、概念構築

【キーワード】

小児がんをもつ親、レジリエンス、ケアモデルの開発

【U R L】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=271tsu>

研究概要

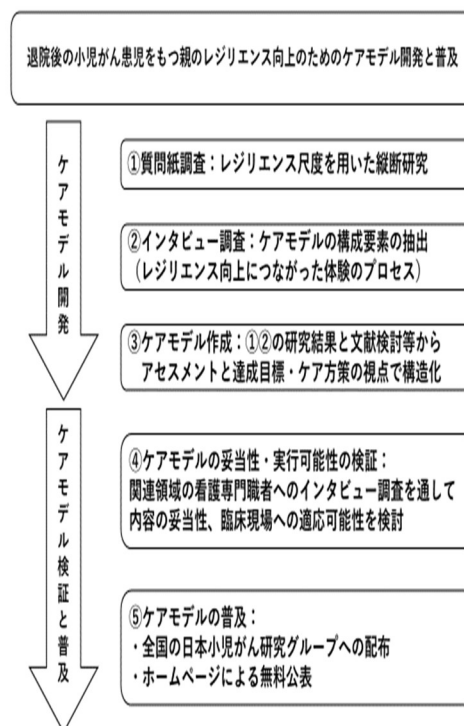
小児がん患児が健やかな社会復帰を果たすため、退院後その子どもを支えていく親に対するサポート体制を整えることは急務です。

小児がん患児をもつ親が逆境の体験に立ち向かったり、克服したり、逆境の経験によって強化されたり、変容させる能力を向上できるケアモデルの開発と普及に関する研究を行っています。

研究紹介

退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンスの概念の構造をモデル化するため、国内外の文献より小児がんをもつ両親のレジリエンスの概念分析を行い、本概念分析より既存の尺度から質問紙調査を作成し、分析を行いました。その結果、退院後または外来通院中にレジリエンスを高めることができればPTSDになる可能性が低くなることが検討されました。一方でレジリエンスとの関連がある出来事は明らかになりましたが、どの時期に、どのようなプロセスでレジリエンスが高まったのかは明らかにできず、探求していく箇所であると考えております。

今後は退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス変化とレジリエンスの向上に影響を与えた体験のプロセスを質的に分析し、ケアモデルの開発と有用性の検証を行い、ケアモデルを全国に普及させることを目的とし研究を進めております。



講座テーマ紹介

小児がんの患児・家族等に関連した専門職者向けの講義

アピールポイントなど

小児専門病院での臨床経験を活かし、小児がん患児・家族への告知、小児がんの長期入院に伴う環境整備、小児がんの妊孕性に関する様々な小児がんの看護研究を行ってきました。今後、課題が山積している小児がん分野の研究を行い、看護を発展させるためのエビデンス構築の看護研究を行っていきたいと考えております。